

…もくじ…

特集「子どもの福祉を考える」 2、3
 介護ぬくもり 4~7
 福祉人材センターニュース 8、9
 山梨県社会福祉大会 10
 福祉サービス苦情解決の仕組み 11
 ほっとすぼっと 古明地 美代子さん 12
 地域密着型サービスの取り組み 13
 シルバー110番 14
 広がれ！地域福祉 山中湖村社会福祉協議会 15
 福祉施設訪問「都保育園」 15
 おしらせ 16

やまなしの 福祉

2011年1月号



カルタで楽しく交通ルールを学びます

月に1回、笛吹市交通安全指導員による「どんぐり交通安全教室」が開かれています。（笛吹市・都保育園）

※15面もご覧ください

発行 社会福祉法人 **山梨県社会福祉協議会**

〒400-0005 甲府市北新1-2-12 TEL 055-254-8610 FAX 055-254-8614
<http://www.y-fukushi.or.jp/>



この広報紙の作成費用の一部は赤い羽根共同募金
 配分金により発行されています。

だれの目にも優しいカラーユニバーサル・デザイン
 で制作した広報です

親と一緒に生活できない子どもたちが増えています。親の病気や家出虐待……。それぞれ事情は違いますが、そんな子どもたちと出会って新しい家族を築いていく里親。ある家族の歩みを通して、子どもの福祉について考えてみましょう。

子どもの福祉を考える

「抱きしめようとしたら、体を反らせ、激しくもがいた。おんぶも拒否しました」

北杜市高根町の佐藤幸男さん(63歳)と妻の法子さん(61歳)は、21年前の出来事を、昨日のことのように思い出します。

加世子さんが佐藤さん夫妻

里親

に引き取られたのは4歳の時でした。母親が病気がちで、未っ子の加世子さんは、乳児院に預けられていました。

「知り合いの子が家族に加わった、そんな意識しかなかったから戸惑いました」と法子さん。

食卓でも驚くような光景が。4歳の少女が、ご飯を大きな丼で2杯も平らげたので

一緒にいることの幸せを



す。
なぜ、そんなに？
「新しい環境が、自分を受け入れてくれるのか、安心できる場所なのか。試そうとする気持が、そうさせたと思ったのは、後になってからでした」

「みんなで子どものことを考えましょう」と話す佐藤さん夫婦

〈里親制度〉

親の病気や家出、虐待などの理由で、家庭では生活できない18歳までの子どもを養育する制度。

里親を希望する場合、研修を受講します。児童相談所は家庭状況などを調べ、知事が認定します。養育が決定するまでに、子どもと過ごす時間が設けられます。

里親には、養育費が公費で支給されます。

登録里親数は全国で約7800人になり、うち約2700人が3870人を養育しています(2009年3月現在)。県内の登録里親数は107人(10年11月現在)で、実際に養育している家庭はその半数です。

県内の里親でつくる「ぎずな会」の前会長だった幸男さんは、こう振り返ります。佐藤さん夫婦は、これまでに8人を里親として受け入れ、その最初が加世子さんでした。

と幸男さん。しかし、佐藤さん一家の日々の積み重ねは、やがて好転につながっていきます。18歳になって佐藤さん宅を出た加世子さんは、東京に出て美容師の見習いを始めました。それから7年。佐藤さん夫婦に、うれしい知らせが加世子さんから届きました。今年3月、結婚することが決まったのです。

「勝手に連れてこられて、勝手に自分の人生が決められることに不信感がありました。加世子さんは当時の気持ち、こう語っています。「うちに来て打ち解けてくれたのは、最後の1年間だけだった」

「お父さんとバージンロードを歩きたい」血のつながりがなくても、一緒にいた時間を幸せだと感じられる。それが「家族」ではないか、と幸男さんは思っています。

児童虐待の相談対応件数は、この20年で40倍以上になりました。苦しみ悩んでいる家族に、私たちは何ができるのでしょうか。甲府市伊勢2丁目児童養護施設や乳児院を運営する社会福祉法人「山梨立正光生園」の加賀美尤祥（ゆうしょう）理事長に聞きました。

「虐待が問題になったのは、いつ頃からですか。」

「1960年代に大きな変化が起きました。戦災孤児を収容してきた児童養護施設に、母親が蒸発したり、育児ノイローゼで親からせっかんされた子どもが保護されるようになりました。当時を象徴するのがコインロッカーベビー事件です」

「どんな背景があったの」

加賀美 尤祥さん



社会福祉法人「山梨立正光生園」理事長

背景に「モノ・カネ主義」 社会で子育てを支えよう

でも、核家族で、子育てを親から伝承されなかった。頼りは育児書だけ。モノ・カネ社会が進む中で、貧困格差も広がっていきます」

「70年代には非行の低年齢化が大きな問題になりました。」

「ちょうどコインロッカーベビー世代が中学生になったころです。家庭内暴力やシンナーの乱用、暴走族など…。彼らが結婚して子どもを産むまで、虐待の根幹には、家族が社会から孤立しているという問題があります。親になることを、社会全体が支えていく仕組みづくりが重要です」

「今の社会では、どの家族に起きても不思議ではありませんね。」

「親は、虐待している自覚をなかなか持てないものです。従来のような、問題のある親と子どもを分離するだけの社会的養護は転換する必要があります」

「具体的には、在宅支援という形で全ての子ども・家庭を支える総合子ども家庭支援センター（仮称）が一定の地域ごとに欲しい。センターは里親もバックアップします」

「高度経済成長の時代、全国から『金の卵』と呼ばれた若者が都市に集められました。やがて彼らは結婚し、子どもが生まれます。」

育てを始める90年代に入ると、アメリカなどで社会問題になっていった子どもへの虐待が日本でも顕在化してきました」

「2000年には、児童虐待防止法が制定されました。」

「その前後から児童養護施設などは満杯状態が続いています。このため虐待の

増える児童虐待

全国の児童相談所が2009年度に相談を受けた児童虐待の件数は4万4210件（速報値）だったことが、厚生労働省の調査で分かりました。集計を始めた1990年度の1101件から19年連続して増えています。この20年で約40倍になりました。山梨県（中央、都留両児童相談所）では、08

年度に比べると3件多い404件の相談が寄せられました。

昨年1～6月に全国の警察が把握した児童虐待事件は181件で、亡くなった18人を含め187人が虐待を受けていました。親をはじめ保護者199人が逮捕されるなど摘発されています。

児童虐待防止法では、虐待に気づいた人は、市町村や児童相談所に通告する義務があります。

残存機能を維持

移 乗

寝たきり防ぐ



トランスポートボード(写真下)を使ったベッドから車いすへの移乗(写真上)

要介護者と介護者双方が安全で、安心できる方法は、福祉用具を上手に利用することに尽きます。

福祉用具を効果的に利用するには、障がい の程度や日常生活に合わせたきめ細かい対応が必要で す。県立介護実習普及センターは、福祉用具の適切な選び方や使い方を学んでもらうため、介護に携わっている人を対象に研修会を開催しています。

本年度は、要介護者の生活行動範囲を広げて自立を促すとともに、介護者の負担を軽減にも役立つ「移乗」について学びました。ベッドから車いすへ、車いすからポータブルトイレへ、車いすから自動車へ。無理に持ち上げない

ば、寝たきり生活は避けられなくなりま す。しかし、車いすに乗ることができれば、トイレやお風呂だけでなく、外出することも可能になります。移動を介助してもらえれば、残存機能を維持することにもつながるでしょう。

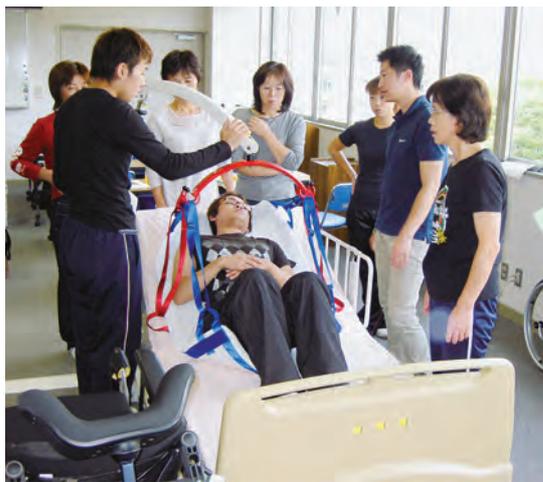
移乗動作が自立できれば問題ありませんが、ベッドから起き上がれなくなったら、介助が必要になってきます。要介護者の脇の下に手を入れ、立たせて、回転して車いすに座らせる。そんな光景をよく見かけます。でも、力任せに抱え上げると、骨が弱っている高齢者や障がい者は、肋骨(ろっこつ)が折れることもあります。

要介護者をベッドの上に、「ドシン」と尻もちをつくように降ろせば、背骨や腰骨を圧迫骨折することもあります。

「移乗には3つの原則があります」と、今回の講師・市川洌(きよし)さん。福祉技術研究所(東京都渋谷区)代表取締役で、福祉用具の開発・普及についての第一人者です。介護支援専門員として現場から発信を続けています。

3原則とは①安全に行う②無理に持ち上げない③介助者にも本人にも快適であるーことだと言います。

移乗は、人の体を垂直方向と水平方向に移動させる動作ですから、物理的な負担が大きいのです。「エイ、ヤー」でやれば、介助者が腰を痛めてしまいます。



リフトを使ってベッドから車いすへの移動



床走行式のリフトはトイレ動作にも便利



やぐらを組んで水平移動する据え置き式リフト

〈立位移乗〉

要介護者の身体状況によつて、介助する方法は異なつてきます。歩行できなくても、手すりなどにつかまつて自分で立てる人、わずかに支える介助があれば立ち上がつて回転でき、静かに座ることができるとは立位移乗がお薦めです。ベッドの介助バーや昇降機能も上手に利用しましょう。

〈座位移乗〉

立位が不安定になつてき

たら、座位での移乗が安全です。座つた姿勢を保つたまま体を水平移動させる方法です。立位より転倒のリスクが少なくなり、介助者

の負担も軽減されます。座位介助をスムーズに行うには、車いすのフットサ

ポート（足置き台）とアームレスト（肘掛け）が脱着

できるか、跳ね上げられる

ことが必要です。トランスファア（移動）ボードやスライディング（滑り）シートも、あると便利。ベッドと車いすの「橋渡し」をす

る板や布で、表面が滑りやすく加工してあります。ボードやシートはお尻の下に差し込み、体重をポー

ドやシート側に傾けると摩擦が軽減され、少ない力で

移動できます。ポータブルトイレも肘掛けが脱着できるものが良いでしょう。ベッドは昇降機能が付いたものを選びま

しょう。移動させる側が少し低くなるように高さが調節できるからです。

支えなければ端座位（ベッドの端に足を降ろして座る姿勢）が取れなかったり、ボードを使うと転落する危険性があったりする場合

は、二人がかりでの介助が、道具が必要になります。リフトは移乗場所や要介護者の身体機能、生活環境を考慮して選びましょう。専門家から吊り具の装着など使い方の指導を受け、事前に練習しましょう。

リフトは本人にとつても介助者にとつても、安全で安心できる便利な道具です。しかし、福祉の現場になかなか広がりません。「大げさだ」「物を扱うようので、非人間的だ」「何だか怖そう」などのイメージが強いからではないでしょうか。

市川さんは「福祉用具を使った介護は『冷たい』『温かくない』などと言われることがありません。しかし、これは大きな誤解だ」と言います。「介護は『自分でできることは自分で』が基本。介助者は、できない部分を

手助けしますが、無理をし

たら事故を招きかねません。道具を使えば、生活環

境ははより充実します」

負担少ない座位移乗 リフトも便利な道具

〈リフト移乗〉

も移動できます。ボードやスライディング（滑り）シートも、あると便利。ベッドと車いすの「橋渡し」をす

むせを防ぎ、飲みやすく工夫

「嚥下（えんげ）」とは、水分や食べ物を口の中に取り込み、咽頭（いんとう）から食道・胃へと送り込むことです。この過程で、どこかがうまくいかなくなることを「嚥下障害」と言います。

食べたり、飲み込んだりする口や喉の筋力は、加齢とともに弱くなります。このため、高齢者は嚥下障害が起きやすくなります。

嚥下障害になると、むせることが多くなります。食べ物などがうまく飲み込めないことから、低栄養や脱水症状、肺炎のような病気にかかることもあります。

県立介護実習普及センターには、むせを防ぎ、飲みやすく工夫された流動食用のコップなど、さまざまな種類の製品が展示してあります。

センターの展示品を紹介します。問い合わせは、当センター（電話055・254・8680、FAX055・254・8690）まで。

商品名 やさしいマグカップ(大)
価格 945円(税込)
特徴 ほどよい傾斜がついているので、頭を後ろにそらさずに飲むことができ、むせの防止になります。大きな持ち手で持ちやすくなっています。



商品名 タベラック(吸い口型)
価格 1,554円(税込)
特徴 吸う力の弱い人や高齢者にお勧めです。ボトルに押し出し性を持たせてあるため、あまり力を使わずに飲食できます。流動食などの食事に便利です。ストロー型もあります。

商品名 らくらくごっくん・スープ・お茶用
 (水量調節機能付き)
価格 3,045円(税込)
特徴 口元がゴム製で水量を調節できるため、むせにくくなっています。とりみを付けずに飲むことができます。おかゆやミキサー食用もあります。



100
便利品
100円ショップの

手軽な値段と豊富な品数をそろえた100円ショップ。そこで見つけた、生活を便利にする用品を紹介し

ます。
商品名「ワンタッチ蛇口レバー」(写真①)

水道の蛇口が固くて、水を出すのに苦労した経験はありませんか？ 三つ又の



ハンドルにはめ込むだけで、レバー式の蛇口に変身。軽い力で操作が可能になります。材質はABS樹脂。

商品名「ドアノブグリッ

プ」(写真②)

昨年2月号(No.291)でも類似品を紹介しましたが、この商品も丸い玉型タ



イプのドアノブに取り付けると手が滑らず楽に回せます。写真のように、お風呂などの円柱型の蛇口ハンドルに取り付けて使うことも

できます。材質はエラストマー(ゴム)。

商品名「ドアノブグリッ」(写真③)



棒タイプ

のドアハンドルにかぶせて使います。滑りにくい素材を使用していますので、手や肘をか

けるだけでドアの開け閉めが簡単にできます。空気が乾燥した季節に起こる、不快な静電気の防止にも効果的です。指の形に握りやすくなっているのも特長です。材質はNBR(合成ゴム)。

商品名「食事前エプロン(ポケットタイプ)」(写真④)

マジックテープで簡単脱着。食べ物、飲み物をこぼ



しても汚れないように、大きなポケットが付いているので衛生的です。

お膳を載せることのできる長さ1.5mのロングタイプや、入浴介助をする人向けの介護用エプロンもあります。材質はポリエチレン。

図書(DVD付き)紹介



著者 岡田慎一郎
出版社 医学書院

古武術は、剣術や柔術などの流派が生まれる以前に編み出された戦闘技法。人の体の仕組みに逆らわない、無駄のない動きが特徴です。古武術の発想をヒントに、著者は体に負担をかけない介護技術を提案しています。「古武術介護 実践編」は、400点を超えるカラー写真を使った144巻の本と85分のDVDで、難しい動作も分かりやすく解説しています。

古武術の動きを身に付けることで、力の弱い人でも体位交換などがスムーズにできるようになり、介助による腰痛や肩こりなどの予防にもつながるでしょう。

このほか、介護・看護・福祉についての本278冊、ビデオ204本を貸し出しています。詳しくは県立介護実習普及センターにお問い合わせください。電話055・254・8680。

介護
ぬくもり

おしらせ

福祉の就職総合



in やまなし春フェア

「福祉の就職総合フェア」

が3月4日（金）、アピオ甲府で開催されます。福祉の仕事に就きたい人などを対象に、仕事の内容や資格についての相談に応じるほか、求人施設や事業者と直接、個別に相談ができます。

昨年8月に開催した就職総合フェアでは、求人側から56事業所が参加。250人の求職者が訪れ、19人の採用が内定しました。

福祉人材センターは、昨年



3月4日、アピオ甲府で開催

夏に引き続き、求人施設（社会福祉施設・団体・企業など）による合同面接コーナーを開設します。また、各種相談コーナーや福祉の仕事なんでも相談コーナーなどを設けます。さらに求人・求職者に必要なさまざまな講演も計画しています。

参加費は無料で、求職者の事前申込みも不要です。JR甲府駅前から専用のシャトルバスを運行しますので、ご利用ください。

福祉の仕事に関心のある人は、ぜひ参加してください。

いずれも昨年夏に開かれた福祉の就職総合フェア

◇日時 3月4日（金）
午後1時～4時（受け付けは午後零時から3時半）

◇会場 アピオ甲府（中巨摩郡昭和町西条3600）

◇主な相談コーナー

◎合同面接コーナー
求人募集の人事担当者との個別面接

◎福祉の仕事なんでも相談コーナー
職種や必要な資格など、福祉全般についての相談に応じます

◎福祉人材センター登録コーナー

求人情報や就職関連情報を提供するための登録と、就職あっせんなどの相談に応じます

◎八ローワーク相談コーナー

医療系求人や一般職種など総合的な就職相談に応じます

◇その他

◎各種別施設相談コーナー（高齢者・児童・障がい者施設の専門家による相談）

◎生活福祉資金相談コーナー（生活福祉資金貸付制度の相談）

◎職場体験事業受付コーナー・マッチング支援事業PRコーナー

◎福祉関係機関相談・PR

◇アクセス

・車でお越しの人は、中央自動車道甲府昭和インターから5分

・専用シャトルバス

甲府駅発（南口①②番）

午後零時、零時半

アピオ発 午後3時

半、4時10分

問い合わせは山梨県福祉人材センター（電話0

55・254・865

4）まで。

マッチング支援事業を展開

山梨県福祉人材センターは、福祉・介護サービスに関心のある人材を、必要としている福祉施設や事業所につなげていくため、マッチング支援事業を展開しています。

▽就職相談やセミナー
当センターは、福祉・介護

業界や社会福祉事業所に詳しいキャリア支援専門員を2人配置。県内各地に出向いて、福祉の仕事や、求人施設が求めている人材像を紹介するセ

福祉・介護

ミナーや就職相談を開催しています。

▽就職フェアにも出席

福祉の仕事をより多くの人に知ってもらうため、市町村が開催する就職ガイダンスに相談コーナーを開設。新卒者を中心とした民間の就職フェアにも相談ブースを設けています。

▽ハローワークと連携

県内のハローワークとも連携して、定期的に福祉就職相談コーナーを開設していま

す。

福祉の仕事に興味のある人は、ぜひご連絡ください。問い合わせは山梨県福祉人材センター（電話055・254・8654）まで。土日祝祭日を除く午前8時半から午後5時15分まで。

〈これから〉の予定

○求職者向けミニセミナー
ハローワーク甲府管内で、1月と3月に開催（詳細な日程は福祉人材センターまでお問い合わせください）。

○福祉のしごと就職相談コーナー
郡内地域（富士吉田、大月、都留の各ハローワーク管内を巡回相談）で毎週水曜日に開催。

○就職ガイダンス

- 富士吉田市就職ガイダンス（平成23年2月10日）
- ビジュアル21（テレビ山梨主催）2月8日（東京・新宿）、2月23日（アピオ甲府）、3月17日（ベルクラシック甲府）
- 甲府市介護健康フェア3月13日（アイメッセ山梨）

福祉・介護人材マッチング支援事業

福祉の仕事をめざす “あなた”と“福祉の職場”を 応援します！

“ぬくもり”
“やさしさ”
出える

山梨県福祉人材センターの「キャリア支援専門員」が、福祉の仕事をめざすあなたの就職活動や、福祉の職場の求人活動、働きやすい職場づくりについての事業所活動をお手伝いします。

頑張るあなたを
お手伝いいたします！
ご相談ください！



無料職業紹介

地域別仕事説明会の開催

就職相談

ハローワーク等との連携による相談活動

就職フェアの開催

福祉の仕事や資格に関する情報提供

求人・求職開拓

経営支援のアドバイス

福祉の職場体験

事業所向けセミナーの開催

山梨県福祉人材センター
キャリア支援専門員

インターネットでも
求人が見れます！

福祉のお仕事

福祉のお仕事

福祉のお仕事



社会福祉法人 山梨県社会福祉協議会
山梨県福祉人材センター

〒400-0005
山梨県甲府市北新1-2-12（山梨県福祉プラザ4階）
TEL 055-254-8654 FAX 055-254-8614
ホームページ <http://www.y-fukushi.or.jp/>

社会福祉功労者ら表彰

落語家の三遊亭小遊三さん講演

山梨県社会福祉協議会と しました。
 県共同募金会は昨年11月、 大会には県内の社協関係
 甲府・県民文化ホールで第 者や福祉関係者ら約120
 58回県社会福祉大会を開催 0人が参加。主催者を代表
 0人が参加。主催者を代表
 い」とあいさつしました。
 る。私たちは地域コミュニ
 ティの充実に率先して取り
 組んでいかなければならな
 31団体に贈られました。中
 かせました。

して、石川豊・県
 社協会長が「家族
 や地域のきずなが
 薄れ、『無縁社会』
 とも言われている
 者、社会奉仕活動を続けて
 いる団体などを表彰。40個
 人8団体に横内正明知事が
 ら知事表彰が、県社協会長
 表彰・感謝状は156個人
 として、民生委員・児童委
 員や社会福祉施設の従事
 者、社会奉仕活動を続けて
 いる団体などを表彰。40個
 が「笑う門には福来たる」
 と題して講演。「笑点」の裏
 話などを披露し、会場を沸
 かせました。
 中央共同募金会会長感謝盾・
 感謝状は1個人5団体に伝
 達されました。
 第2部では、大月市出身
 の落語家三遊亭小遊三さん



約1200人が参加して盛大に開催された山梨県社会福祉大会（甲府・県民文化ホール）



長年の活動に横内正明知事から表彰状が贈られた



会場ではシニアカーなども展示された



笑いを満載した落語家三遊亭小遊三さんの講演

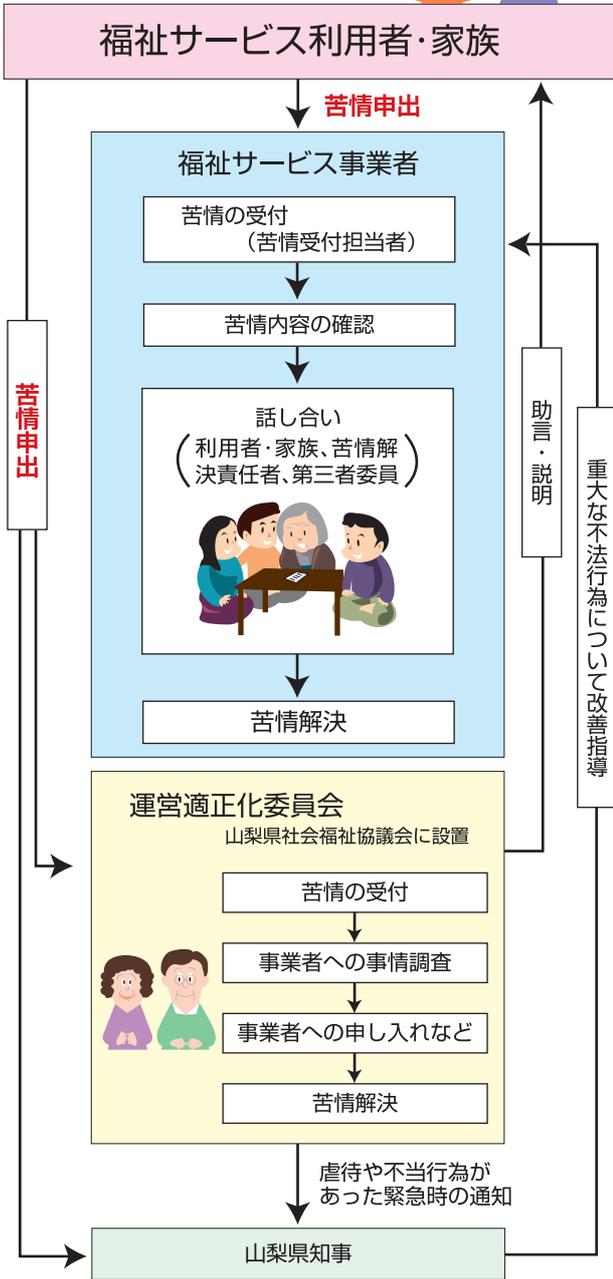


三遊亭小遊三さんの話に、大きな笑いと拍手が起こった

「福祉サービス」を利用して

意見や要望は ありませんか？

<苦情解決の流れ>



苦情相談に応じます

○事業者に申し出を
○第三者委員の活用

福祉サービスを利用して度は高まります。虐待などみて、「事前の説明と内容が違う」などと感じたことはありませんか。

2000（平成12）年に施行された社会福祉法は、社会福祉施設などの経営者に対し、利用者や家族からの意見や要望、苦情を適切に解決するための体制整備を求めています。

苦情を吸い上げ、解決策を探っていく。それによって事業者が提供するサービスが向上し、利用者の満足度が向上し、利用者の満足

「利用者者の権利保護」と「事業者の信頼確保」につながる者となり、組織で苦情解決に努めます。

問題は、中立・公正な立場で苦情を聴いたり話し合ったりするため、第三者委員が立ち会うことになっていきます。委員には民生委員児童委員や大学教授、弁護士ら外部の人材が、

サービス事業者に申し出てサービス事業者は職員の中から苦情受付担当者を任命。責任を明確にするため、施設長などが苦情解決責任者となり、組織で苦情解決に努めます。

事業者によって選ばれます。委員は日常的に利用者の声を事業者に伝え、サービスの改善につなげます。

○運営適正化委員会
利用者や事業者、第三者委員の話し合いで解決できなかった苦情は山梨県社会福祉協議会にある「福祉サービス運営適正化委員会」に申し出ることが出来ます。事業者に直接話しにくいときも、委員会に直接申し出ることが出来ます。

匿名でも相談でき、秘密は堅く守られます。

委員会が受理した苦情は、解決方法を検討。事業者への事情調査をすることもあります。福祉サービス利用者や虐待などが行われているおそれがある場合は、速やかに山梨県知事に通知します。

山梨県福祉サービス運営適正化委員会は県福祉プラザ4階にあります（電話番号：055・220・3030、FAX055・254・8614）。



甲州市にある特別養護老人ホーム。ホールに入所者が続々と集まってきました。車いすに乗った人、ベッドに横たわったお年寄りもいます。日本舞踊グループ「仙浪会」の訪問を、みんな楽しみに待っていました。

「音楽が流れ、踊りが始まると、皆さんの表情がパツと明るくなります。来て良かった、と感じる一瞬です」と古明地美代子さん（73歳）。日本舞踊澤村流の師範で、甲州市塩山の自宅にけいこ場があります。

「仙浪会」は古明地さんの芸名・澤村仙浪から取りました。お弟子さんたちがメンバーです。ボランティアとして老人ホームや敬老会を訪れ、日ごころの練習の成果を披露するようになっていて、5年ほど経ちます。昨年度からことぶきマスターにも登録しました。

古明地さんたちの踊りに合わせ、

日本舞踊50年 古明地 美代子さん



「なりきって踊らなければ、見ている人に伝わらない」と語る古明地美代子さん

せ、手拍子をたたくお年寄り。認知症の人もありますが、「武田節」などの歌謡曲に振り付けられた新舞踊が始まると一緒に歌い出し、周囲を驚かすこともあります。

古明地さんが日本舞踊を本格的に始めたのは21歳の時でした。その前年に市の民踊大会に出場したことがきっかけで、踊りのとりこになりました。

日本舞踊は、出ばやしの躍動感が魅力的な「長唄」や、物語性が強く叙情的な「常磐津」などの古典ものから新舞踊まで、さまざまな種類の演目があります。

大月市にある宗家のけいこ場に通って、それらを一つひとつ習い始めてから半世紀が経ちました。1980（昭和55）年に

高齢者施設で踊り披露／お年寄りに元気届ける

は師範になりましたが、「江戸の文化に育てられた舞踊は奥が深く、やればやるほど自分の未熟さが分かってきます」。

舞台上に立って踊ることで、目の前の壁を乗り越えてきた古明地さん。「その人物になりきって踊らなければ、見ている人には伝わらない」と、指導にも熱が入ります。

仙浪会のメンバー、坂本たけ子さん（70歳、同市神金）は「練習は厳しいが、けいこが終わった後は、いろんな相談ができる。そんな温かさに引かれて、みんな通ってくるのでは」と、会の魅力を語ります。

鈴木さと志さん（76歳、同市西広門田）は習い始めて30年。「農家なので農閑期しか練習できませんが、踊りはぼけ防止や手足のいい運動ですよ」

ボランティア活動を続けてきた雨宮幸子さん（77歳、同市上於曽）も「施設のお年寄りから、『また来てね』と声を掛けられると、元気が湧いてくる」そうです。「高齢者施設に限らず、要望があれば伺いたい」と古明地さんは話しています。

公益財団法人 山日YBS厚生文化事業団

サポートします
やまなしの福祉



〒400-8505 甲府市北口2-6-10 ☎055-231-3106

地域密着型サービスの取り組み

住み慣れた地域で暮らし続けるために

介護が必要になっても、住み慣れた地域で暮らし続けたい。

そんな高齢者の願いを実現するため、2006（平成18）年に創設されたのが、小規模多機能型居宅介護や認知症対応型共同生活介護（グループホーム）などの「地域密着型サービス」です。

甲府市城東3丁目にあるグループホーム「しあわせホーム甲府」の取り組みを紹介します。

災害対策で地域と連携

小規模で家庭的な生活を大切にするグループホームは、介護老人福祉施設などと比べると、職員の配置は少なくなっています。地震や火事などの災害が起きた時、利用者を安全に避難させるには、地域の協力が欠かせません。

「しあわせホーム甲府」は、災害時に協力してもらえる近所の食堂や商店、地区の老人クラブの方々を協力員として登録しています。昨年には、利用者

とその家族、職員、協力員と一緒に防災訓練をしました。訓練は、地域住民である協力員に事業所の様子を知ってもらう良い機会にもなっています。

ボランティアと交流

地域のボランティアとの交流も、グループホームのサービス内容などを多くの人に分かってもらうきっかけになります。

「しあわせホーム甲府」は、通りに面した場所にボランティア募集の告知をするなど、積極的に受け入れています。大正琴グループや折り紙、フラダンス愛好

者など、事業所の近くに住む多彩なボランティアが訪れ、利用者との交流を図っています。

外に出て触れ合い

グループホーム内での地域住民との交流も大事ですが、外に飛び出して多くの人々と触れ合うことも重要です。「しあわせホーム甲府」は、その一つとして、利用者が作った絵手紙の展示会を甲府信用金庫本店（甲府市丸の内）で開催。甲府市の朝日通りにある地域コミュニティ広場「花木」でも作品を展示しました。



◇
 デイサービスを中心に利用者の状態や希望に応じて訪問介護やショートステイを組み合わせた「小規模多機能型居宅介護」や、認知症などで自宅での生活が難しくなっても、なじんだ環境で暮らしていけるグループホームの整備は、多様化する高齢者のニーズに欠かせないサービスです。



地域の協力員も参加した避難訓練



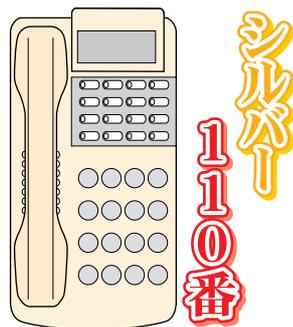
事業所には多くのボランティアが訪れる



手芸を楽しむ利用者



甲府信用金庫に展示された絵手紙



県社会福祉協議会で設置している高齢者総合相談センターには、遺言に関する相談が多く寄せられます。何回かに分けて、その内容を紹介します。

問い 年をとってきたので、遺言書を作っておきたいと思えます。自分で書く場合の作成方法を教えてください。



新日本法規出版『誰にもわかる社会生活六法 法律相談Q&A 第2巻』1023頁から

答え

最近、遺言書を残しておく高齢者が増えています。遺言書を生前に書いておくのは、相続争いを未然に防ぎ、残された家族が安心して暮らせるようにするためです。遺言者が自分で書く遺言を自筆証書遺言と言います。

▽自筆証書遺言の特徴

自筆証書遺言は、公証人

▽自筆証書遺言の注意点

①自分で書く

遺言の内容の全文、日付、氏名を自分で書く必要がある。

「自筆証書遺言」の作り方

方式間違っていると無効

に依頼する公正証書遺言と異なり、手数料を支払う手間がかかりません。また証人の立会いも必要ではありませんから、遺言書の作成自体を秘密にしておくことができます。

しかし、自筆証書遺言の方式は厳格に定められ、その方式を間違えると遺言が無効になってしまいます。また自筆証書遺言には偽造、

新日本法規出版『誰にもわかる社会生活六法 法律相談Q&A 第2巻』1024頁から



遺言か又は秘密証書遺言によるほかありません

②日付を入れる

日付の書かれていない遺言は無効です。日付は遺言の成立時期を明らかにし、遺言する能力があったか否かを明確にします。2通以上の遺言書が発見されたときは、後で作成された遺言の方が優先されます。

③氏名を書く

氏名は、氏または名だけでなく、遺言者が誰であるかわかればよいとされています。

④印を押す

押捺する印は、実印でも

認め印でも、遺言者が自分の印として押捺すればよいとされています。拇印は、できれば避けた方がいいでしょう。

⑤訂正の仕方

遺言を加除、訂正するには一定の方式を守らなければなりません。変更した場所に印を押し、その場所を指定して変更したことを付記し、付記した後に署名しなければなりません。

⑥その他

筆記用具や用紙の制限はありません。ただし、鉛筆のように時間が経つうちに消えたり、書き換えられ易いものは使わない方が賢明でしょう。



さらに詳しく知りたい方は、山梨県高齢者総合相談センター（電話055・254・0110）へお問い合わせください。相談は無料です。

次号では「遺言書を見つけたらどうすればよいか」について、紹介します。



山中湖村社会福祉協議会

豪雨被害からの復旧作業に 30人超すボランティアが集結

昨年9月8日、山中湖村は早朝から台風9号の影響で豪雨に見舞われ、降水量が100mmを越えました。一部の地域から、床上や床下浸水など被害が出ている、と次々に連絡が入ってきます。

山中湖村社会福祉協議会は、村の災害対策本部から被害状況を収集し、被災者に対する支援ニーズの把握に努めました。

被害が比較的狭い範囲に集中したことから、被災直後に被災者と直接会うことができ、社協事務局では被災者の要望を聞いて、支援活動に乗り出しました。

県社協とも協議して、災害ボランティアセンターの設置を決定。センターの運営は山中湖村社協が行い、ボランティアの

募集は南都留地区の市町村に限定して行うことになったのです。募集期間が短い中、当日は

30人を越すボランティアが集まりました。

豪雨被害に遭った家屋の中には、50kg以上も土砂がたまっていました。早速、土砂の搬出や、濁流に洗われた家具の運び出しに着手。当初は、2日間を予定していたのですが、ボランティアの精力的な活躍で、1日で活動を終わることができました。

小林九三子事務局長は「ボランティアの人たちは、みんな疲れていたでしょう。しかし、活動終了式で出合った参加者の表情は、とても充実しているように見えました」と振り返ります。



泥を搬出する災害ボランティア

福祉施設 訪問

都 保育園

収穫の喜びやスポーツの楽しさ学ぶ



「サツマイモパーティー」を楽しむ園児たち

都保育園は、笛吹市一宮町にある浄泉寺の境内に併設されている保育園です。定員が45人の小さな保育園ですが、保護者と保育園が一体となつた行事づくりを展開しています。こどもみこしや納涼まつり、秋まつりなど、ほとんどの行事に保護者が参加。保育園関係者と連携し、子育てに対する理解を深めてきました。

昨年9月には、スポーツを通じて親子のきずなを深めようと、サッカー教室が開かれました。Jリーグ「ヴァンフォーレ甲府」のコーチによる丁寧な指導に、子どもたちは大喜び。体を動かす楽しさや、ゲームを通じて、点を取るの喜びや悔しさも知りました。

また、都保育園では食育の大切さを学ぼうと、昨年春、園庭の脇に稲やサツマイモを植えました。秋まつりでは、子どもたちが収穫したサツマイモを保護者が焼いて「サツマイモパーティー」を開催。作物を育て、収穫する喜びや、食べることの大切さを学びました。

柿沼志保子園長は「家庭的な保育」を目指し、職員一丸となつて保育に当たりたい」と話しています。

施設概要

施設名 都保育園
住所 〒405-0072 笛吹市一宮町本都塚117
連絡先 TEL 0553・47・0415 FAX 0553・47・0446
設立 昭和28年6月

敷地面積 1266.43m²
延床面積 265.23m²
建物構造 木造平屋建て
定員 45人

おしらせ

報告

善意が続々寄せられました

山梨ともしび基金は、社団法人山梨県調理師会(小又正会長)様からご寄付をいただきました。

昨年9月に開催した「ねりんピックやまなし2010」では、同会が豚汁を来場者に無料で提供。その際、山梨ともしび基金への募金箱を設置してくださいました。



「プロの味に大満足」豚汁を味わう来場者

また、社団法人山梨県労働者福祉協会(田中甲子男会長)様と日本労働組合総連合会山梨県連合会(渡辺一彦会長)様からもご寄付をいただきました。

これまでに寄せられた金額は、両団体累計で4,115,000円となりました。

寄付金は、障がい者・児童・高齢者福祉やボランティアの各分野で普及啓発、養育訓練、調査研究、体験交流などの事業や活動を行っている団体に助成を行う基金として大切に活用させ

ていただきます。ありがとうございました。

○問い合わせ先
県社会福祉協議会企画課
電話055・254・8610



ありがとう、山梨県労働者福祉協会様(上)、連合山梨様(下)

赤い羽根共同募金にご協力いただきありがとうございました

県社会福祉協議会では、県共同募金会に274,816円を寄付しました。

○街頭募金：239,016円
昨年10月1日～5日までの3日間、募金ボランティアとして延べ37施設・団体、141人が、J

R甲府駅前などで募金を呼びかけ、集めてくださった



りと耳を傾けてきたらどうか。胸が痛みます。

今回は、悩みながら子どもたちの孤独を受け止める里親さん家族の思いを取材しました。里親さんを孤立させないためにも、地域の力が必要だと実感しました。(A)

浄財です。

○職場募金：35,800円
今年度は7企業・団体にご賛同くださいました。

○問い合わせ先
県社会福祉協議会企画課
電話055・254・8610

案内

食のセーフティネットモデル事業(食料品個人宅配)を行っています

NPO法人フードバンク山梨(※1)は、昨年10月から生活困窮のため、健康を維持するだけの食生活が確保できない方々(個人)に行政などを通じて食品を配送する「食のセーフティネットモデル事業」(※2)を始めました。

申し込みには「食品配送申請書」の提出などの手続きが必要です。申請書に基づき、配送期間が決まり、毎月第1と第3金曜日に家族構成などを考慮して約2週間分の食料品を梱包、配送します。

○問い合わせ先

フードバンク山梨
電話/FAX055・282・8798
ホームページ www.fbyama.com
〒400-0306南アルプス市小笠原317 サンシャインビル1階

(※1) 同団体は、企業や農家から寄贈される、賞味期限内でも、箱が壊れているなどの理由により、販売ができない食料品を必要としている施設や団体に無償で提供しています(詳しくは、「やまなしの福祉2010年8月号」に掲載。記事は山梨県社会福祉協議会ホームページで見ることができます)。

(※2) 同事業は独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成金により運営され、3月までのモデル事業です。

編集後記

日本の子どもたち(15歳)の29.8%が「孤独を感じている」そうです(2007年、ユニセフ「子どもの幸福度調査」)。

子どもの声に、私たちはしっか